

令和3年度 今年度の重点研究について

令和4年3月11日
常設A部会 研究

進んで学び、つながり合い、できる喜びを得られる算数指導の在り方
～問題を自ら見出し、対話の中で解決しようとする子どもの育成～

◆研究内容・方法

(1) 研究内容の取組について

① 授業研究の視点の明確化

算数の授業における具体的な子どもの姿を設定し、授業研究のなかでの視点として共有した。その視点をもとに授業づくりの手立てを考えたり、事後研究会で討議したりし、自己の今後の授業に生かせるようにした。

・視点1・・・問題を自ら見出す

→日常の生活や経験などを課題と結びつけ算数的に捉え、授業の中で数学的活動を通してその課題を解決しようとする姿。

・視点2・・・対話の中で解決しようとする

→友達との関わり合いの中で、数学的な表現を用いて事象を表したり、考察したりしながら問題解決しようとする姿。

② 共同思考のあり方

自分の考えと友達のを比較・統合しながら練り上げの場面での児童の思考をうながす支援の仕方。そのため有用なツールや発言の仕方や発表の手順などについて、子どもたちの姿をもとに検証をする。

(2) 研究方法の取組について

○研究テーマ達成のための公開授業

- ・年次研の対象者を中心に、各学年一人以上が研究授業を行い、2年間で全員が授業を行えるように計画し、年間、授業研究会を5回行った。
- ・研究授業に至るまでには、授業者のみならず学年（ブロック）全体で、指導案検討ならびに事前研を行い、授業に臨むようにした。
- ・低学年（1・2・3年、個別）、高学年（4・5・6年）部会を設置し、部会ごとに指導案検討をした。
- ・授業後の研究会は、全体会と部会で分かれて協議を行った。講師の先生が複数来てくださった場合には、部会での検討の後全体での共有をするなど、様々な形での協議をした。

○授業振り返りのシート、研究会での板書を通した全体での研究内容の共有

- ・部会ごとの授業研究の際に、振り返りシートを活用しメンバーが視点を統一して授業を参観できるようにする。
- ・A部会のメンバーで研究会の内容をまとめ、全体として研究を深めることができるようにする。

◆成果と課題

(1) 成果

① 視点を明確にした授業づくり

二つの視点を定めたことで、授業の中での対話とはどういうものか、自分の授業や他の先生方の授業を通して学ぶことができた。また、授業をする側は活動の中でどの部分の指導・支援を大切にしていけるか、授業を参観する側は授業のどの部分を見ていけるかが分かっていたので、授業を全体で深めていくことができた。

② 全職員で参加することのできた研究会

年間を通して授業研究会を開くことができた。指導案検討から当日の授業まで、学年や部会での検討をし、その後講師を招いての全体の授業研究会でさらに深めることができた。実際に子どもたちが学ぶ姿をもって全員で話し合い、内容を共有することができたので、自分たちの学びにつなげていくことができた。

③ 講師による専門的・具体的指導

年間を通して、講師の方に助言をいただき、テーマにあるような子どもの姿とは算数におけるどんなことなのかを学ぶことができた。事前に授業者からの質問等にも応えていただき、授業研を重ねるごとに、より算数におけるテーマの捉えが明確になっていった。

(2) 課題

① 身につけさせたい力の明確化

子どもたちに身につけさせたい力は何なのか、以前に作成した都筑小学校の資質・能力の体系表をもとに絞っていく必要があると感じた。テーマの捉えが難しいという声があったため、身につけさせたい力を焦点化していくとともに、算数における「何ができていたらよいのか」、各学年の習熟度などと照らし合わせ、明確にしていきたい。

② 検討会や、授業研の在り方

授業研究会を計画的に開くことができたが、その開催方法や参加体制などはその時々によって変わってしまい、全職員が研究会の内容を把握しきれていないとはいえず、理解度や深まりに差ができてしまった。参観方法の見直しや研究会の意見交換の仕方などを工夫し、より効果の研究会にしていくようにする。

(3) 研究仮説について

課題を工夫し、意図的な問題解決の場面を設定すれば、
自ら学びを進めようとする姿が見られるであろう。

教師による課題の提示方法やタイミングなどについては授業の実践を通して、工夫として学ぶことができたと思う。しかし、「自ら学んでいく姿」とはどんな姿なのかははっきりしていない部分があったため、全体で「自ら学んでいく姿」のイメージを話し合ってから研究をしていくようにする。

◆来年度に向けて

- ・「対話の中で学ぶ」ということを引き続き進めつつ、さらなる具体的な姿や手立てを明確にして研究を進めていきたい。
- ・クラス全員が対話に参加できるような手立てや支援の方法を探る。
- ・子ども同士が対話できるようにしたい。

これらの意見が多かったため、テーマは引き続き同様のものとし、「自ら学んでいく姿」を教師が各学年の成長段階での共通のイメージをもって研究を進めていく。